



おぐらかな
小倉佳奈さん

● 植野小6年

将来の夢

私の夢は、医師になることです。
幼いころから、医りょうの仕事を目撃してきました。患者さんの具合が悪い時には夜中でも診察に行ったり、旅行中に連絡があれば戻って来たりすることもあります。医師はいつも命と向き合っている大変な仕事だと思います。
しかしそれ以上にやりがいのある職業だと感じています。私は一人でも多くの人の助けとなれたらいいなと思っています。
夢を実現するためには、勉強をがんばるのは当然のことですが、たくさんの経験を通して、人を思いやる心や人間として豊かな心を身につけていきたいです。わたしの目標は、医師である父と一緒に仕事をする事です。いつの日か夢をかなえたいです。

みんなの広場に
出してみませんか？

「キラリ★話題の人」「すてきな仲間たち」「めもと人生」に登場していただける方を募集しています。自薦・他薦は問いません。
※「すてきな仲間たち」「めもと人生」は隔月で掲載します

■ 問合せ

政策調整課広報広聴係
☎(20)3037

めもと人生
meoto life

久保 洋司さん(76歳)
久保 二六子さん(72歳) 閑馬町



Q ご結婚何年目ですか
A 昭和35年に結婚し、今年で52年目です。
Q これまでで印象に残っている出来事は
A 二人で支えあつてきた一日一日の積み重ねが財産です。20年にわたって町議ができたのは夫の協力があってできたことでしたね。
Q 夫婦円満の秘訣は
A お互いが我慢することです。
Q 今後の抱負は
A 農業実践集団「シンセキ村」(田舎での農業体験など)のお手伝いを行っていただきますので、年々、うちを訪ねてくる、我が子のような存在が増えていきます。今後も「子どもたち」と

ともに、二人で健康に過ごしていきたいです。
Q 若者へのメッセージを
A 過疎化に直面していますが、田舎も本当にいいところですよ。ぜひ田舎の素晴らしさを体験してください。
よりそう皆とうれしさ共に
じんせい耕し
ふれあう笑顔
むげんの絆
こだます50年
長寿をねがい福来たる
金婚式に際し、シンセキ村の「子どもたち」からの贈りものだそうです。まさにお二人を表す言葉に感じました。
久保さんご夫妻、これからもお幸せに



今回の表紙 「雛人形」 葛生伝承館「雛人形展」にて

女子のすこやかな成長を願って飾る「雛人形」。
伝承館では皆さんから募集した雛人形を中心に、昔のお雛様から最近のお雛様まで、愛らしいお雛様を展示した「雛人形展」を4月11日まで開催しています。一体一体異なるお雛様をぜひお楽しみください。

かたやなぎ
片柳カツさん
(朝日町)

キラリ★
話題の「ひと」

○プロフィール
昭和5年、真岡市生まれ。
14歳のころ、真岡市から佐野市へ。
数十年前から星宮神社の清掃などに携わり、現在に至る



好きです、
ボランテイヤ

星宮神社の周辺で掃除をしている笑顔の素敵なお婆さんに出会ったことはありますか。

片柳カツさんは星宮を美しくする奉仕活動をひとりでも何十年も続けていらつしやいます。近くに暮らす人たちは使いに行つた帰りは遠回りをして、神社の東側に手入れされた小さな花園を見ながら、おじぞう様に挨拶をして家路につきます。

始めは子どものお守りをしながら目についた草を抜いたりしていたそうです。「テレビもゲームも無い時代、神社の境内は子どもたちの格好の遊び場でした。子どもたちが無事に、素直に育つたのは神社のおかげ。本当にありがたいと感謝の気持ちでいっぱいです。清掃などをやらせていただいているのが生きがいでもあります」と慈愛の眼差しで草花に見入っていらつしやいました。草を取り、近くにある自分の畑で栽培した花を植え、掃除をするカツさん。何百年も前に、城山のお堀の土を盛つてその上にお奉りした星宮神社の東西南北の隅々まで、手入れが行き届いているのは気分爽快です。

カツさんは終戦後まもなく、14歳

◀境内をお掃除するカツさん



で真岡市から佐野市の美容院に住み込みで就職しました。そこで礼儀作法から美容師の資格まで伝授していただき、縁あって朝日町に居を構えていた邦二さんに嫁ぎ、三男一女のお子さんに恵まれました。子どもたちは皆さん独立し、お孫さんが10人いるそうです。

「今までの苦労はみんなプラスになりました。その時は私ばかり何で、と思ったこともありましたが、我慢はするものだね」と断言するカツさん。なんと素晴らしい人生でしょう。

先達も申ししていました。人はそれぞれに重荷を負いながら、一日一日を懸命に生きています。大切なのはその生きざまであつて、地位や名誉を手にするのではない。

片柳カツさん、82歳。高箒に手をおき、空を見上げるお顔が輝いていました。(市民記者 田島廣子)

市長からの
メッセージ



寒さの中にも春の訪れを感じるこの頃です。市内のあちこちで花々が咲き始めています。今月は、マンサク、ザゼンソウ、セツブンソウ、梅、アズマイチゲ、そして市の花である「カタクリ」などが楽しめます。花粉症の方にはつらい時期ですが、花を求めて散策するのも健康に良いものです。16日から「万葉自然公園かたくりの里」を中心にスプリングフラワーフェスティバルを開催していますので、多くの方に佐野の素晴らしさを感じていただきたいと思ひます。さて、今日11日、東日本大震災の発生から1年になります。いまだに多くの被災者の皆さんが仮設住宅で暮らし、避難者の皆さんが故郷を離れて不自由な暮らしを強いられていることを思うと胸が痛みます。佐野市にも約250人の方が避難しています。復興事業も緒についたばかりで、息の長い支援が必要になることは間違いありません。市としても被災地の状況を注視しながら今後ともできるだけだけの支援を行つていきたいと思ひます。

また、小規模な地震が相変わらず頻発していますし、大規模地震の発生も予想されています。本市は災害対策本部を常設しバックアップ体制をとつていますが、いざという時頼りになるのは各家庭での備えと地域での相互援助体制です。時とともに震災当時の記憶が薄れがちになりますが、市民の皆さんには備蓄や避難場所の確認など、普段からの備えを欠かさないようお願いいたします。

日々暖かくなりますが、風邪などひかないようご自愛ください。

岡部正英